

すいしん

発行:住吉・住之江同和人権教育推進協議会・すいしん編集委員会
住所:大阪市住吉区帝塚山東5-3-21 市民交流センターすみよし北内
電話:06(6674)3731

変えてはいけないもの 変えなければならないこと

「地域連携から見た、今後の同推協活動に期待すること」 講師:小住光さん

10月2日、住吉小学校にて今年度の第2回同推協役員研修会をおこないました。今回は、部落解放同盟大阪府連合会住吉支部の前支部長で、現在、住吉第5町会の会長や住吉連合地域活動協議会の社会福祉部長などを務めておられる小住光さんを招いての研修会でした。小住さんは、PTA活動や町会活動など自身の経験をもとに「地域連携から見た、今後の同推協活動に期待すること」というテーマで、熱く語っていただきました。



開口一番「現在でも子どもを中心に据えた教育の実践、研究、研修活動を続けているのは、大阪市内では住吉・住之江同推協ぐらいや、自慢できることや!」と激励の言葉をいただきました。

次に、池田小学校でおこった殺傷事件をきっかけに、登下校中の子どもたちの安全を地域でも見守っていかうということで、安全サポーターの取り組みをスタートさせ、続けてきたことについて話されました。朝の通学路で「おはよう!」「気をつけて行きや」と声をかけると、子どもから「いつもありがとう!」との言葉をもらえることが大変うれしいと言われました。また、住吉中学校の生徒が、夏休み前に地域の清掃活動を積極的にこなしていることについても触れられました。このように、地域の中で子どもとおとなが互いに支え合い、励まし合う姿が見られることは大切なことだと話されました。

小学校でPTA会長になった時のお話では、保護者がある問題について質問をしても、どこまで問題解決が進んでいるのかが見えにくい学校側の返答を聞き、風通しの悪い学校だと感じたこともあった。室戸台風慰霊祭や子育てサロンの取り組みなどを例に「地域に開かれた学校づくり」の大切さについて話されました。また、児童虐待の問題についても触れ、虐待をしてしまう親の「声」に耳を傾けること、子育ての悩みを相談できる人がそばにすることが大切だとして「地域に開かれた家庭、家庭に開かれた地域づくり」も必要なことだと話されました。

かつて住吉小学校・中学校は越境受け入れ校で、いわゆる「おちこぼれ」は、ほったらかしだったことや、上住吉の「差別校区問題」について話され、2014年4月から導入がはじまる学校選択制について「決して差別を生んではいけない!」と警鐘を鳴らされました。「差別がある限り」「子どもがいる限り」人権教育の実践が必要であり、特に、管理職がそのことを認識したうえで学校運営を進めていくことが重要だと話されました。

最後に、「ダイヤル式の黒電話からスマートフォンへと変化してきたように時代は変わる。その中で、子どもを中心にしたものの考え方は変えてはいけない。しかし、制度の変化や社会の変化に応じてそれを柔軟に活用していけるように変わっていかなければならない。今後の同推協の活動に期待したい」と語られました。

あらためて、学校・保育所・家庭・地域などが連携して、人権感覚を高め、自ら物事を総合的に判断できるような子どもたちを育てることの必要性について考えると同時に、同推協が重要な役割を担っていることに気づかせてもらった研修会でした。

住吉・住之江同推協 第2回新転任研修会「BURAKUとの架け橋」

～一人ひとりを大切にする社会を創るために～

住吉・住之江同推協第2回新転任研修会を9月4日、住吉住宅集会所で開催しました。

昨年に引き続き、今回も「BURAKU との架け橋」と題して、前田千代乃さん、西村隆英さん、吉田愛さんの3名の地域の方を招き、パネルディスカッション形式でおこないました。

まず、3名の皆さんから「自分にとっての部落問題」というテーマで、お話をいただきました。

【前田千代乃さんのお話】

私は枚方の方で生まれました。89歳です。生まれた家から、別の家にもらわれていき、貧乏だったので学用品も買えなくなり、貧乏人の子どもといじめられ、小学校に行けなくなりました。親についていろいろな仕事をしましたが、12歳の時にワイシャツ工場に行きました。昭和20年の秋に、実の姉が訪ねてきて、やがて結婚をすすめられました。その相手の人は住吉の部落の人でした。自分は、噂などで、部落は怖いところだと思いこんでいたので驚きました。しかし、姉は「自分の連れ合いも部落の人だが、同じ人間、こわくない」と話してくれ、相手の姑さんも「あんた一人で苦労してきたんやな、ここへ来たらしんどうてもつろうても一人やないで、義理の母親とも一緒に暮らしていい」と言ってくれたので、ほっとして住吉に来ました。主人が病気になったり大変なこともあったけれど、運動に参加して、子どものために解放奨学金をもらいました。また住宅にも入れました。その後、ヘルパーをし、字をちゃんと覚えようと識字に通うようになりました。今は住吉に来て幸せやと思う毎日です。

【西村隆英さんのお話】

私は1961年生まれで住吉の地区出身です。御崎地区に引っ越し、住之江小～南陵中に通っていましたが、しかし、部落解放子ども会にはずっと参加しており、狭山差別裁判のことも学んでいたため、小4くらいには自分は部落と関係していると気づいていました。当初はマイナス面しか感じられず、自分が部落の人間であることが損やと考えることもありました。

中学校で、東大阪のある被差別部落の近くに住んでいたことのある友だちが「〇〇(被差別部落の地名)はこわいところやねんで」と自分に言ったことがありました。かなり悩んだ末、黙っていると自分を否定するような気がして、「オレ部落やねん、オレこわいか」と言いました。その友人は「そんなつもりで言うたんと違うねん、ごめん」と言ってくれました。その後、自分は部落について否定的に考えたらあかんと思い、さまざまな活動をしてきました。考えがあって、一時、解放運動に関わらない時期がありましたが、大学の時、強制送還されそうになった在日韓国人の友人の支援をしたことをきっかけに「しんどい人の立場になって考えることができるようになったり、社会の矛盾に気がつけるようになったのは、自分が部落出身者であったからだ」と、部落をプラスに考えることができるようになりました。

【吉田愛さんのお話】

私は1980年住吉の地区に生まれました。すでに解放住宅が建っていて、見た目は今と同じような感じでした。解放子ども会で狭山事件なども学んでいたけれど、大学生までは、他人ごとのようで、ちゃんと考えたことがありませんでした。しかし、大学生の時、アルバイト先で「住吉東の近くで部落やんな」という言葉を聞いて、ドキッとすることがありました。ここで何か言ったらばれると考えて、会話から逃げました。ちゃんと言い返せない自





分に腹が立って、はじめて自分のことやと感じました。

卒業して、部落解放・人権研究所で働き出し、自分が言わなかったらばれへんし差別されることもないと考えていたことが、間違いだと気付いてきました。

以前、親しかった人に、「私部落出身者やねん。部落問題て聞いたことある？」と言うと、「この場の空気が重くなる、ここで言わんでいいやん」と言われました。悪気ないと言われたけど、一緒になって考えてほしいから言った

のにとても残念でした。ある人に「ここに住んでると知られへんほうがいいやろ」と言われたこともあり。部落問題は、出身者だけの問題ではないと思います。知らないから差別をしているということもあるかもしれないと思います。

私も友人に、自分が同性愛者であることを告げられたときに「ただの思いすごしとちがうのん」と知らないが故に否定的に返してしまったことがあって、後からとても後悔しました。

自分は部落問題があったから、他の人権問題も考えていけるようになりました。今は、部落出身であることが悪いことではなく、差別があることが悪いと思っています。“部落”“部落”と言うから、部落差別がなくなれないという人がいますが、そこには、部落問題を避けたい気持ちがあるのではないのでしょうか。部落問題を語ったり、学ぶ場を創ることが大切だと思っています。

3人のパネラーの方のお話の後、参加された新転任の方からの質問を受け、再度発言していただきました。

その中で前田さんは「はじめ自分は貧乏やけど、部落の人と違う。部落はこわいとこやと思ってた。でも、みんなに会って支えられて違うとわかった。奨学金や住宅など生きるために、解放運動に参加させてもらった。今は幸せや。」と再び語られ、西村さんは「今は、部落は昔と違うけれど、心理的には変わっていない。差別は隠しても隠さなくても向こうからやってきます。」と語られました。吉田さんは「解放子ども会には、みんな行くから行ってるだけで、自分のものになっていなかった。親ともしゃべっていなかった。今はもう一度地域子ども会をつくり、部落の子どものアイデンティティを育てたい。」と語られました。

パネラーの発言を受けコーディネーターからは『部落差別に気がつかないということは、部落差別を知らず、感じとれないからではないのか。前田さんのお話からわかることは、部落には、誰かに生活を改善してもらうのではなく、自分たちの力で自ら暮らしを高めていこうという運動の姿があったことを知っておきたい。西村さんの「自分を否定することがいやだったから、自分が何ものかということを考えてきた。」という発言と、吉田さんから「部落問題は誰の問題か」というなげかけを受け、部落問題学習を進めることは、子どもにとっても教職員にとっても、どのような意味があることかをきっちり考えて実践をすすめることが大切ではないか。』との提起がありました。

最後に“教育に期待すること”として、吉田さんからは『部落はまだマイナスのイメージが多いけど、正しいことを学べる場所は大切だと思う。みんなで部落問題を考える場所を創っていききたい。一緒に取り組んでいきましょう。』西村さんからは『差別してませんという人がいるけれど、部落差別は日本の社会が産んでいる。自分と関係があると思ってほしい。しんどい気持ちのわかる子どもを育ててほしい。』前田さんからは『子どもに厳しく、ほめるときはすごくほめてあげてほしい。そして、年をとっても思い出すような先生になってほしい。』というメッセージをいただきました。

今回の研修を通して、教職員としても人間としても、部落問題にどのように関わりどう生きていくかは、一人ひとりを大切に作る社会をどう創っていくのかにつながるのだと確認しあえた研修会となりました。

学校の窓

住之江小学校

平和・人権 住之江小ピースフェスティバル～おねえちゃんおにいちゃんがやさしかった～

7月13日(土)にピースフェスティバルを実施しました。これまでも、夏休み前の土曜日に、地域・保護者と共に子どもが平和や命の大切さを考える取り組みとして行ってきました。今年度は土曜授業として実施しました。児童会のテーマは「明るい未来を築くには、私たちの力で、世界を救うために「戦争をしない させない」」でした。

第1部は、オープニングセレモニー。児童会からの平和アピールや今日のめあてを確認したあと、各学年から1学期の平和学習の取り組みの報告をしました。テーマ1年「えんぴつびな」「かわいそうなぞう」「へいわってどんなこと?」2年「さよならカバくん」3年「地雷をふんだぞうモータラ」4年「大阪大空襲」5年「沖縄戦」6年「ヒロシマ ナガサキ」でした。体育館の壁面には、子ども一人ひとりの新聞や感想文が掲示されていました。

第2部は、グループで8つのコーナー(すいとん、昔あそび、平和の絵本、手話体験、缶バッチ作り、平和の旗、反戦平和ビデオ、ヒロシマパネル展)を巡っていきます。今年度から、全校たてわりで48グループの編成を行いました。このたてわり集団作りも本校の重点目標としています。今回が初めてのたてわりによる大きな行事でした。迷子も少なく、みんなで協力して活動できていました。

教室にもどって、子どもにアンケートを記入させました。ピースフェスティバルはどうだったかの問いに、96.9%がよかった、どちらかといえばよかったに○をしていました。



1年→せんそうは したらだめ! へいわって しあわせ。みんなで まわっていったのしかった。6ねんせいと いっしょで うれしかった。ありがとう いったかった きもちです。

6年→日本は、世界を相手に戦争をしました。思ったことは戦争は絶対してはいけない。またそれで「げんぱく」という、おそろしい兵器をぜったいに使ってはいけないと感じました。みんなと同じように活動していた時とちがって、リーダーとして働くことができ、いつもとちがう世界を楽しめました。ちょっと大変だったけど、前みたいに自分の同級生の友だちとかと、好きなように回るより、学年がちがう話した事もないような友だちとかと回った方が、高学年という責任とか、たいへんさとかわかるから、この活動はすごくいいと思います。

学校の窓

清江小学校

「特色のある 宿泊行事」

清江小学校では、[自然・人・心]をテーマにした他校とは少し違う宿泊行事をおこなっています。

まず1つめは『美山体験学習』です。5年生が、6月に1泊2日で、大阪市内では清江小学校だけが「京都・美山」で実施しています。平成16・17年度に文部科学省の指定を受け、「長期宿泊体験事業」に取り組んだことをきっかけに、今年で10年目を向かえました。



「日本の秘境」と呼ばれている「芦生の森」のハイキングや、清流「由良川」での川遊び、夜のホタル観察や星空観察と、一生忘れられない体験ばかりです。また、「わら細作り」や、「みたらしだんご作り」では、毎年お世話いただいている現地の人々との交流を通して、優しさや温かさにもふれることができました。そして、自分や友だちの良さを新たに発見できる機会となっています。



2つめは『修学旅行』です。6年生が10月に伊賀の「もくもく手作りファーム」に行っています。

たくさんの動物とふれあえる「学習牧場」や、風を感じる「ハンモックの森」、2日目の朝の「体験学習」での牛のえさ運びや乳搾り体験、都会では決して味わうことのできない体験ばかりです。また、風力発電を使った宿泊棟に泊まりエコを実感し、無駄のない生活を考えるいい機会になっています。他にも日本に数台しかない「オルガネット」の鑑賞、体験工房での「パン作り」などを通して、支援して下さる現地の人々との交流やグループ活動での友だちとの関わり合いの中で、心のふれあいが深まり、小学校生活最後の良い思い出を作る機会となっています。



昨年度、区の人権教育実践交流会で「美山体験学習」の報告をさせていただいた子どもたち48名は、運動会を終え、修学旅行の準備に追われています。

子どもたちにとって、小学校生活最後の宿泊行事です。友だちの優しさや協力することの大切さをもっと知っていくいい機会になっていくことを願っています。

じんけん かんが 人権についてみんなで考えたよ

学校の窓 (大阪市立敷津浦小学校)

敷津浦小学校では、年間5回「人権デー」を設けています。1年生から6年生の子どもたち全員で、しょうがい児教育や在日朝鮮人教育、部落問題学習、男女共生教育、野宿生活者問題学習、平和学習の視点で『命の尊さやの大切さ』などについて考えたり、話し合ったりします。校内テレビ放送を使い、絵本などをもとにした自作DVDや紙芝居を視聴したり、ゲストティチャーと活動したりした後、それぞれの学年の子どもたちの実態に即した「めあて(目標)」のもと話し合い活動を行います。

今回は、その一例を紹介したいと思います。



「じゃんけんポン アイコでしょ」を教材にしながら、男女共生の視点で、「男だから」「女だから」ではなく『自分らしさ』について、話し合いました。



「も～お うしです！」を教材にしながら、部落問題学習の視点で、古来より日本では、『牛の命は、泣き声以外は、ムダにしない』文化が大切に育まれてきたことを知り、『命を大切にすること』について考えました。



「オレンジいろのペンギン」を教材にしながら、しょうがい児教育の視点で、それぞれの『もちあじ』が生かされる学校・社会について考えました。



8月6日は、『平和・人権登校日』として、6年生が学習した事を発表すると共に、住之江手話歌サークルのみなさん、戦争体験者を招き体験学習をして『平和』『人権』について考えました。

「人権」を視点の柱にして、考え合ったことが途切れるのではなく、それぞれの取り組みに一貫性をもたせながら、学齢にあわせて感性が深まるようにしています。

住吉・住之江同推協公開授業研究会のご案内

大阪市立真住中学校

住吉・住之江同和人権教育推進協議会の公開授業研究会を、今年度は真住中学校で実施します。真住中学校では、子どもたちの「生きる力」をどう引き出し、どう育てていくかを、教育目標として日々取り組みを進めています。今回の公開授業研究会では、そんな本校の取り組みのようすをご覧ください。

『「生きる力」を育む教育の創造を目指して』

とのテーマで、全学年・全学級の授業を公開します。何かとお忙しい時期とは思いますが、是非、出席していただき、今後の取り組みを深めていく交流の場にしたいと思います。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

○日程 11月20日(水)

14:15 14:30 15:20 15:40 16:30 17:00

受付	公開授業	終学活・移動	分科会(各学年ごと)	後片付け
----	------	--------	------------	------

○公開授業 真住中学校各教室及び運動場

1年			2年			3年		
	教科	授業者		教科	授業者		教科	授業者
1組	音楽	滝澤 紀恵子	1組	体育	木下 修一・谷井 由彩	1組	英語	竹原 育子
2組	国語	椎木 江梨奈	2組	体育	木下 修一・谷井 由彩	2組	数学	中田 浩一
3組	数学	黒田 登志子	3組	英語	甲斐 裕子	3組	美術	岩村 綾子
4組	技術	寺島 明尚	4組	国語	橋本 香織	4組	理科	佐々木 純
5組	国語	三上 匡・藤浪 正樹	5組	数学	竹内 里枝子	5組	英語	多田 由美
			6組	理科	尾田 一樹			

分科会会場 1年生…多目的室2 2年生…図書室 3年生…多目的室1

※本校は2足制になっています。恐れ入りますが来校される際に**上履きの用意**をお願いします。

第21回住吉・住之江じんけんのつどい

◇日時 2013年11月9日(土) 13:00~17:00
 ◇場所 市民交流センターすみよし北 他
 全体講演「地域の防災力について考える」
 講師 柴崎光生さん、細貝光義さん(鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会)



またみえ —130—

オリンピックが来るぞ!



分科会のテーマ・講師			
教育	①	【講演】 「ある精肉店のはなし」	講師：北出昭さん (貝塚市人権協会会長)
	②	【講演】 「DVや暴力環境下で育った子どもたち ～その影響・発見・手だてについて考える～」	講師：友田尋子さん (甲南女子大学 看護リハビリテーション学部教授、日本DV防止・情報センター運営委員)
	③	【講演】 「セクシュアルマイノリティ～私たちの生き方～」	講師：小林和香さん、山上ゆいさん、山崎成美さん(わっか家)
福祉	①	【講演】 この地域に生きる、この土地で生きる “石巻(震災被害)から那智勝浦(台風被害)へのいのちのリレー”	講師：岩崎順子さん (財)和歌山県人権啓発センター登録講師)
	②	【講演】 「精神障がいのある親 & 子どものサポート」	講師：宮越裕治さん(総合心療センターひなが) 和田正子さん(三重県健康福祉部)
	③	【講演】 「生活保護のいま」	講師：小久保哲郎さん(弁護士、生活保護問題対策全国会議事務局長、日弁連貧困問題対策本部)
啓発	①	【講演・ワークショップ】 「住吉区の防災最新情報と、実践！災害時の個人情報保護と要援護者への対応」	講師：辻本晴美さん(危機管理室 大阪市防災アドバイザー)、住吉区役所職員
	②	【講演】 「災害に強いまちづくりについて共に考えよう！ ～鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会と住吉地域における取り組みを通して～」	講師：柴崎光生さん、細貝光義さん(鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会)、住吉中学校生徒会、住吉連合地域活動協議会 他
	③	【講演】 「ガバメントヘイトスピーチ」	講師：遠藤比呂通さん(弁護士)

☆「じんけんのつどい」に関する問合せ・申込は、市民交流センターすみよし北まで
 TEL (06) 6674-3731